

17.貴施設(病院)には、地域交流のプログラムはありますか。

(1 はい 2 いいえ)

地域交流のプログラムを実施していない施設(55.1%)の方が多かった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	75	44.9	44.9	44.9
いいえ	92	55.1	55.1	100.0
合計	167	100.0	100.0	

18.貴施設(病院)では、学生や実習生を定期的に受け入れていますか。

(1 はい 2 いいえ)

学生や実習生を定期的に受け入れている施設は77.8%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	130	77.8	78.3	78.3
いいえ	36	21.6	21.7	100.0
合計	166	99.4	100.0	
欠損値	1	.6		
合計	167	100.0		

19.貴施設(病院)ではボランティアを受け入れていますか。

(1 はい 2 いいえ)

ボランティアを受け入れている施設は70.7%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	118	70.7	72.4	72.4
いいえ	45	26.9	27.6	100.0
合計	163	97.6	100.0	
欠損値	4	2.4		
合計	167	100.0		

20.貴施設内(院内)では研究活動がおこなわれていますか。

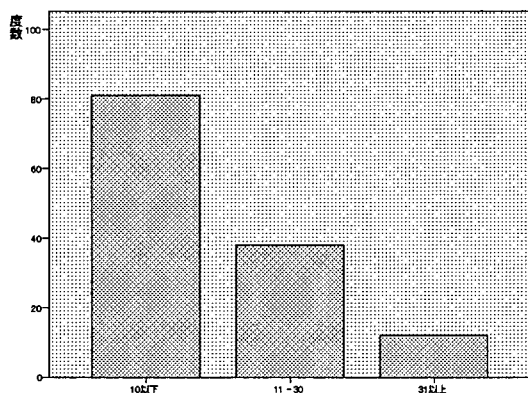
(1 はい 2 いいえ)

施設内(院内)で研究活動がおこなわれている施設は88.6%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	148	88.6	90.8	90.8
いいえ	15	9.0	9.2	100.0
合計	163	97.6	100.0	
欠損値	4	2.4		
合計	167	100.0		

i 昨年度1年間で、施設内(院内)で行った研究会、研修会の回数は何回ですか。

研究会、研修会を行った回数は、平均年間14.2回(最小値1回、最大値144回)と1ヶ月に1回程度であった。「10回未満」61.8%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
10以下	81	48.5	61.8	61.8
11 - 30	38	22.8	29.0	90.8
31以上	12	7.2	9.2	100.0
合計	131	78.4	100.0	
欠損値	36	21.6		
合計	167	100.0		

ii 年間の研修計画を立てる担当者が決まっていますか。

(1 はい 2 いいえ)

研究活動がおこなわれている施設では、89.9%が担当者を決めていた。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	134	80.2	89.9	89.9
いいえ	15	9.0	10.1	100.0
合計	149	89.2	100.0	
欠損値	18	10.8		
合計	167	100.0		

21. 貴施設(病院)では、活動や研究の助成金を申請していますか。

(1 はい 2 いいえ)

積極的に活動や研究の助成金を申請している施設は 19.8%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	33	19.8	20.1	20.1
いいえ	131	78.4	79.9	100.0
合計	164	98.2	100.0	
欠損値	3	1.8		
合計	167	100.0		

22. 貴施設(病院)では、医療サービスの向上のために、業務改善委員会やQCサークルのような部門横断的な活動を行っていますか。

(1 はい 2 いいえ)

部門横断的な活動を行っている施設は 81.4%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	136	81.4	82.9	82.9
いいえ	28	16.8	17.1	100.0
合計	164	98.2	100.0	
欠損値	3	1.8		
合計	167	100.0		

23.貴施設(病院)では、地域との医療連携を図っていますか。

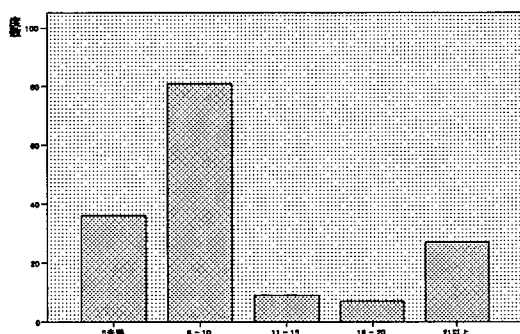
(1 地域医療連携室等がある 2 医療連携を図るための担当者が決まっている 3 その他 4 地域との医療連携はうまく図れていない)

地域との医療連携については、ほぼ半数の施設で「地域医療連携室等がある」(52.1%)、「医療連携を図るための担当者が決まっている」(52.1%)状況であった。少数であるが「地域との医療連携はうまく図れていない」ところもあった(6.6%)。

	度数	パーセント
地域医療連携室がある	87	52.1
医療連携を図る為の担当者が決まっている	87	52.1
地域との医療連携はうまく図れていない	11	6.6
その他	7	4.2
合計	167	100

24.貴施設(病院)は建設(最後の改築)から何年経過しましたか。

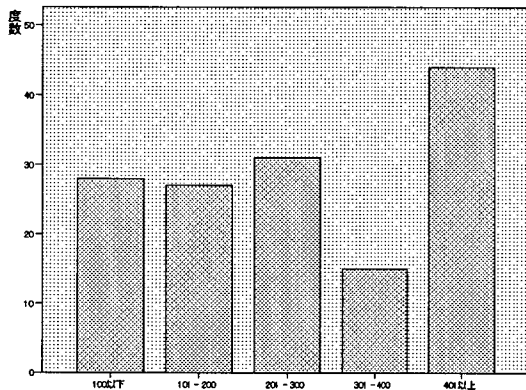
回答のあった施設の建設(改築)してからの経年数は、平均 11.5 年(最小値 1 年、最大値 60 年)で、10 年までの施設が 70.1%を占めており、比較的新しい施設が多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
5未満	36	21.6	22.5	22.5
6 - 10	81	48.5	50.6	73.1
11 - 15	9	5.4	5.6	78.8
16 - 20	7	4.2	4.4	83.1
21以上	27	16.2	16.9	100.0
合計	160	95.8	100.0	
欠損値	7	4.2		
合計	167	100.0		

25. 昨年度(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)の患者平均在院日数(実日数)は何日ですか。

平均在院日数の平均は335.8日(最小値17日、最大値1382日)であった。平均在院日数は「401日以上」26.3%が最も多く、次に「201-300日」18.6%であった。少数ではあるが1000日を超える施設も2.4%(4/145)あった。

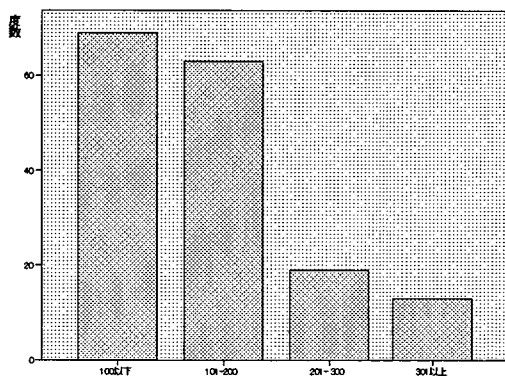


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
100以下	28	16.8	19.3	19.3
101-200	27	16.2	18.6	37.9
201-300	31	18.6	21.4	59.3
301-400	15	9.0	10.3	69.7
401以上	44	26.3	30.3	100.0
合計	145	86.8	100.0	
欠損値	22	13.2		
合計	167	100.0		

26. 貴施設(病院)の療養病床数をお答えください。

回答のあった施設の総病床数の平均値は 145.7 床(最小値 18 床、最大値 736 床)であった。「100 床以下」41.3%の施設が最も多かった。医療保険療養病床数は平均 79.7 床、介護保険療養病床数は平均 66.0 床で、医療保険病床のみある施設は 31.7%、介護保険病床のみある施設は 9.8%、両方の病床を持つ施設は 58.5%であった。

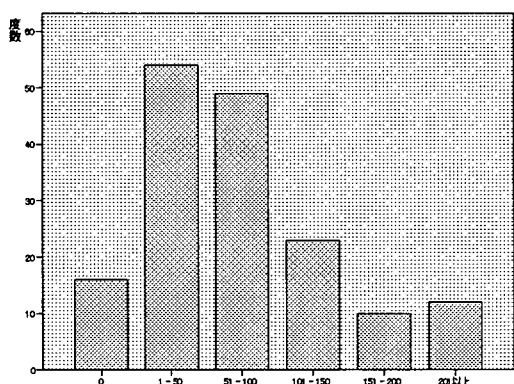
i 総病床数



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
100以下	69	41.3	42.1	42.1
101-200	63	37.7	38.4	80.5
201-300	19	11.4	11.6	92.1
301以上	13	7.8	7.9	100.0
合計	164	98.2	100.0	
欠損値	3	1.8		
合計	167	100.0		

ii 医療保険療養病床数

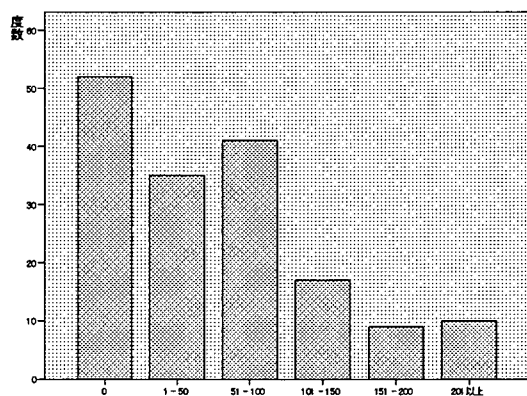
医療保険療養病床数は平均 79.7 床(最小値 0、最大値 404 床)であった。「1-50 床」32.3%と答えた施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	16	9.6	9.8	9.8
1-50	54	32.3	32.9	42.7
51-100	49	29.3	29.9	72.6
101-150	23	13.8	14.0	86.6
151-200	10	6.0	6.1	92.7
201以上	12	7.2	7.3	100.0
合計	164	98.2	100.0	
欠損値	3	1.8		
合計	167	100.0		

iii 介護保険療養病床数

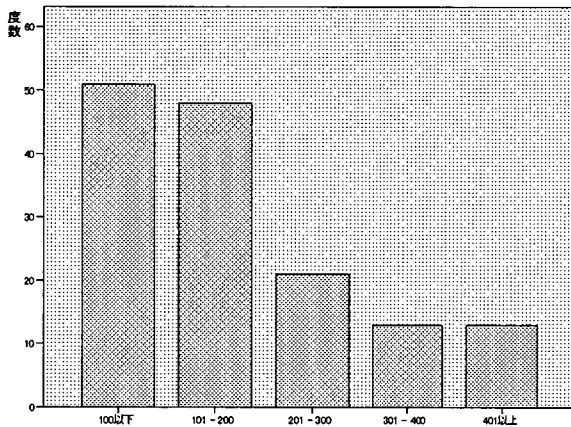
介護保険療養病床数は平均66.0床(最小値0床、最大値497床)であった。介護保険療養病床を持たない「0床」の施設が31.7%と最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	52	31.1	31.7	31.7
1-50	35	21.0	21.3	53.0
51-100	41	24.6	25.0	78.0
101-150	17	10.2	10.4	88.4
151-200	9	5.4	5.5	93.9
201以上	10	6.0	6.1	100.0
合計	164	98.2	100.0	
欠損値	3	1.8		
合計	167	100.0		

27. 昨年度(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)の退院人数をお答えください。また、そのうち、死亡退院数、自宅退院数、急性期病院転院数、他の療養病床転院数、老人保健施設、特養ホームへの転所数、をそれぞれご記入ください。

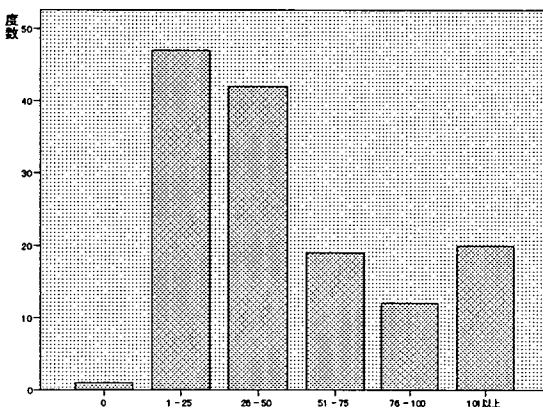
回答のあった施設で、退院人数の平均は 188.0 人(最小値 4 人、最大値 1006 人)であった。「100 人以下」30.5%の施設が最も多かった。200 人までの施設が 59.2%を占めた。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
100以下	51	30.5	34.9	34.9
101 - 200	48	28.7	32.9	67.8
201 - 300	21	12.6	14.4	82.2
301 - 400	13	7.8	8.9	91.1
401以上	13	7.8	8.9	100.0
合計	146	87.4	100.0	
欠損値	21	12.6		
合計	167	100.0		

i 死亡退院数

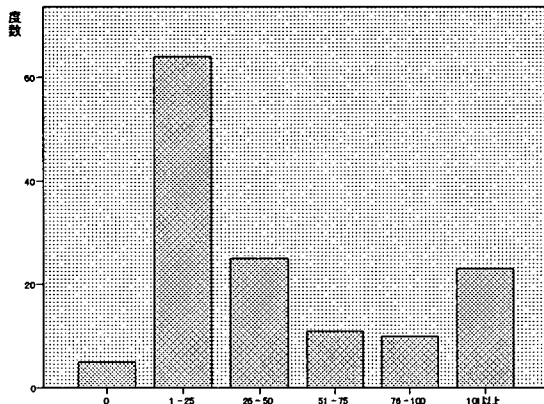
死亡退院人数の平均は 50.8 人(最小値 0 人、最大値 219 人)であった。「1-25 人」28.1%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	1	.6	.7	.7
1 - 25	47	28.1	33.3	34.0
26 - 50	42	25.1	29.8	63.8
51 - 75	19	11.4	13.5	77.3
76 - 100	12	7.2	8.5	85.8
101以上	20	12.0	14.2	100.0
合計	141	84.4	100.0	
欠損値	26	15.6		
合計	167	100.0		

ii 自宅(子供さんや親族の家も含む)退院数

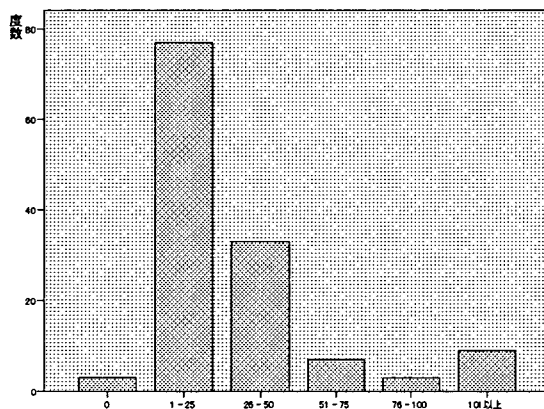
自宅退院人数の平均は 58.1 人(最小値 0 人、最大値 516 人)であった。退院者数が「1-25 人」38.3%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	5	3.0	3.6	3.6
1-25	64	38.3	46.4	50.0
26-50	25	15.0	18.1	68.1
51-75	11	6.6	8.0	76.1
76-100	10	6.0	7.2	83.3
101以上	23	13.8	16.7	100.0
合計	138	82.6	100.0	
欠損値	29	17.4		
合計	167	100.0		

iii 急性期病院転院数

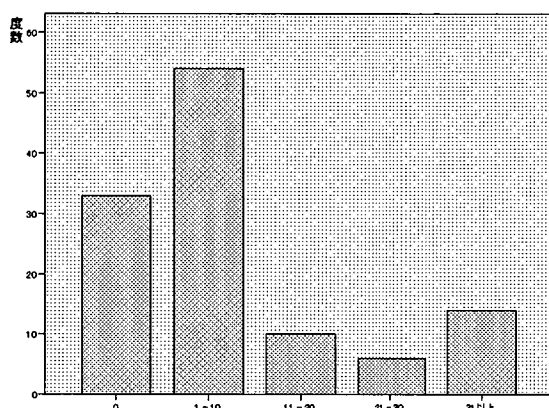
急性期病院転院数の平均は 32.1 人(最小値は 0 人、最大値 263 人)であった。「1-25 人」46.1%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	3	1.8	2.3	2.3
1-25	77	46.1	58.3	60.6
26-50	33	19.8	25.0	85.6
51-75	7	4.2	5.3	90.9
76-100	3	1.8	2.3	93.2
101以上	9	5.4	6.8	100.0
合計	132	79.0	100.0	
欠損値	35	21.0		
合計	167	100.0		

iv 他の療養病床転院数

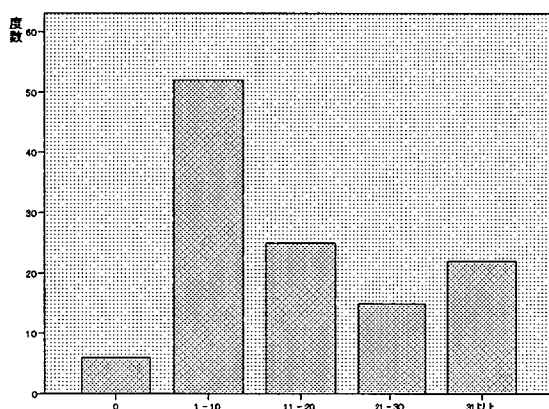
他の療養病床転院数の平均は 13.1 人(最小値 0 人、最大値 280 人)であった。「1-10 人」32.3%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	33	19.8	28.2	28.2
1-10	54	32.3	46.2	74.4
11-20	10	6.0	8.5	82.9
21-30	6	3.6	5.1	88.0
31以上	14	8.4	12.0	100.0
合計	117	70.1	100.0	
欠損値	50	29.9		
合計	167	100.0		

v 老健への転所数

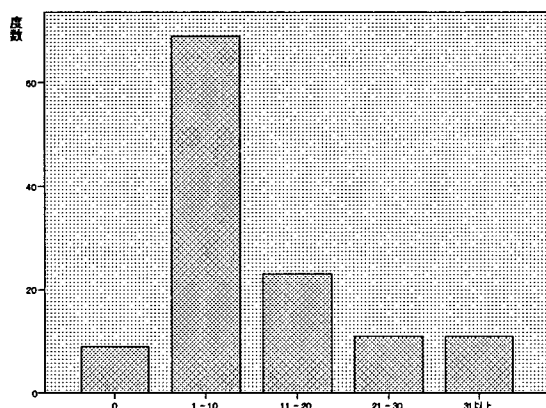
老健への転所数の平均は 16.7 人(最小値 0 人、最大値 106 人)であった。「1-10 人」31.1%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	6	3.6	5.0	5.0
1-10	52	31.1	43.3	48.3
11-20	25	15.0	20.8	69.2
21-30	15	9.0	12.5	81.7
31以上	22	13.2	18.3	100.0
合計	120	71.9	100.0	
欠損値	47	28.1		
合計	167	100.0		

vi 特養ホームへの転所数

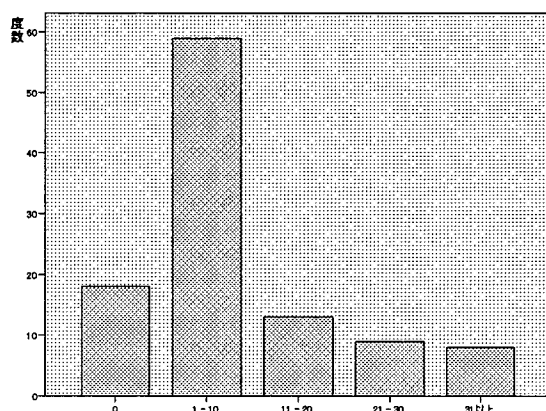
特養ホームへの転所数の平均は12.9人(最小値0人、最大値102人)であった。「1-10人」41.3%の施設が最も多かった。「31人以上」という相当数の利用者の特養ホーム転所がみられた施設も6.6%あった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	9	5.4	7.3	7.3
1-10	69	41.3	56.1	63.4
11-20	23	13.8	18.7	82.1
21-30	11	6.6	8.9	91.1
31以上	11	6.6	8.9	100.0
合計	123	73.7	100.0	
欠損値	44	26.3		
合計	167	100.0		

vii その他の施設への退院数

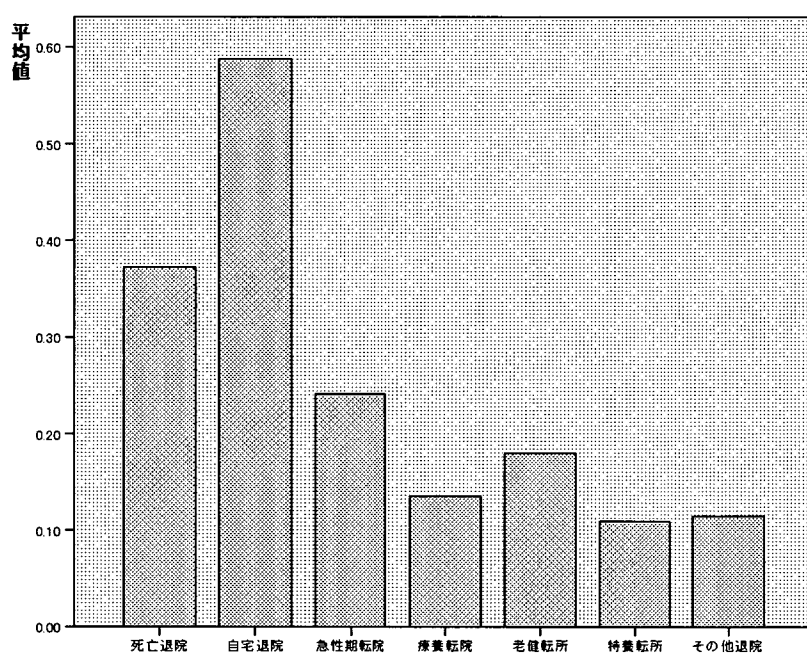
その他の施設への退院数の平均は11.8人(最小値0人、最大値185人)であった。「1-10人」35.3%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	18	10.8	16.8	16.8
1-10	59	35.3	55.1	72.0
11-20	13	7.8	12.1	84.1
21-30	9	5.4	8.4	92.5
31以上	8	4.8	7.5	100.0
合計	107	64.1	100.0	
欠損値	60	35.9		
合計	167	100.0		

Viii病床数当たりでみた退院数

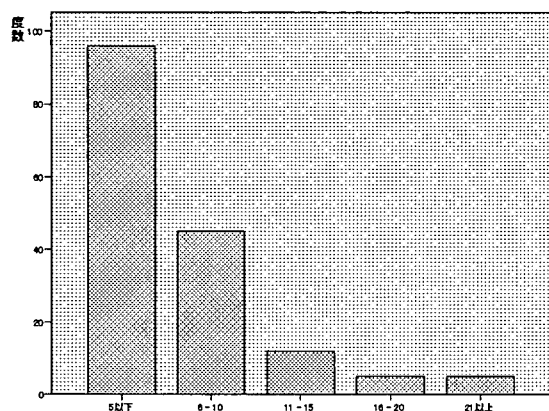
退院人数は病床数の影響を受けるので病床数当たりでみた退院先人数を出した。病床数当りの自宅退院が最も多く、死亡退院が続いた。最大値を平均値で割った値を求め、施設間のばらつき度と考えると、他の退院に比べて、死亡退院の施設間のばらつきは少なく、続いて急性期病院への転院のばらつき度が少ないことが示された。これらの退院は、他の退院や転院、転所に比べて、施設属性に影響されにくいことが示唆される。



	平均値	最小値	最大値	最大値／平均値
死亡退院数/病床数	0.35	0	1.5	4.3
自宅退院数/病床数	0.53	0	9.0	17.0
急性期病院転院数/病床数	0.26	0	2.1	8.1
他の療養病床転院数/病床数	0.13	0	5.6	43.1
老人保健施設入所数/病床数	0.17	0	3.3	19.4
特別養護老人ホーム入所数/病床数	0.11	0	1.5	13.6
その他の施設退院数/病床数	0.11	0	3.1	28.2

28.現在、貴施設に所属する常勤医師は何人ですか。

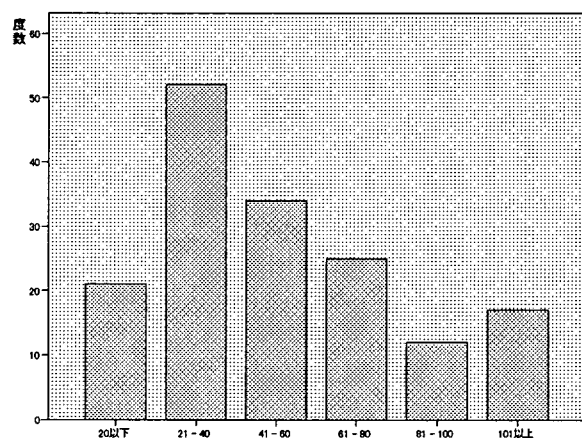
常勤医師の平均は 6.5 人(最小値 1 人、最大値 48 人)であった。「5 人以下」57.5%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
5以下	96	57.5	58.9	58.9
6-10	45	26.9	27.6	86.5
11-15	12	7.2	7.4	93.9
16-20	5	3.0	3.1	96.9
21以上	5	3.0	3.1	100.0
合計	163	97.6	100.0	
欠損値	4	2.4		
合計	167	100.0		

29.現在、貴施設に所属する常勤看護師(准看護師を含む)数は何人ですか。

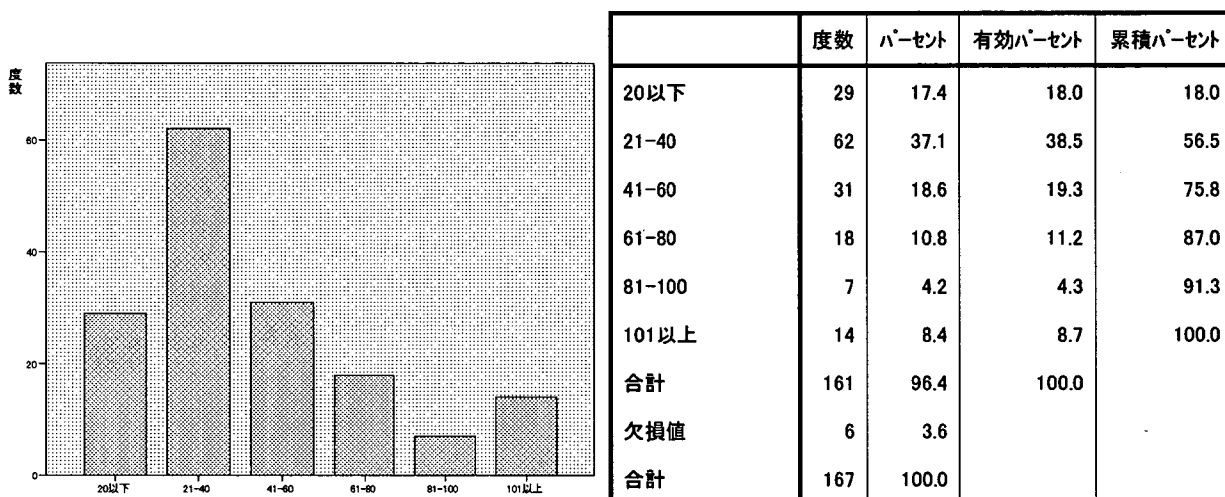
常勤看護師の平均は 56.6 人(最小値 2 人、最大値 300 人)であった。「21-40 人」31.1%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
20以下	21	12.6	13.0	13.0
21-40	52	31.1	32.3	45.3
41-60	34	20.4	21.1	66.5
61-80	25	15.0	15.5	82.0
81-100	12	7.2	7.5	89.4
101以上	17	10.2	10.6	100.0
合計	161	96.4	100.0	
欠損値	6	3.6		
合計	167	100.0		

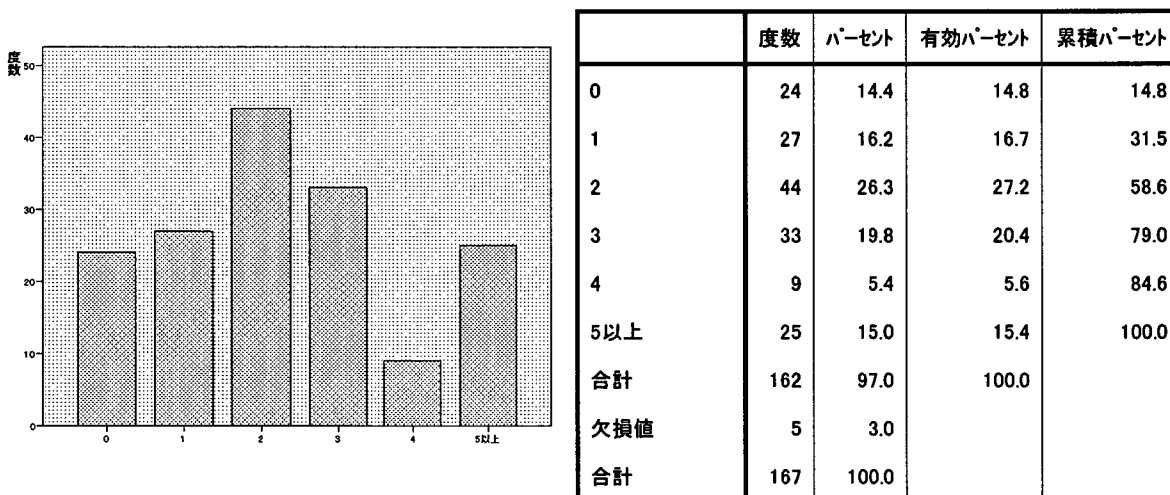
30.現在、貴施設に所属する常勤介護職・看護助手の数は計何人ですか。

回答のあった施設で、常勤介護職・看護助手数の平均は 47.3 人(最小値 0 人、最大値 269 人)であった。「21-40 人」37.1%の施設が最も多かった。



31.現在、貴施設に所属する常勤のソーシャルワーカー(MSW)は何人ですか。

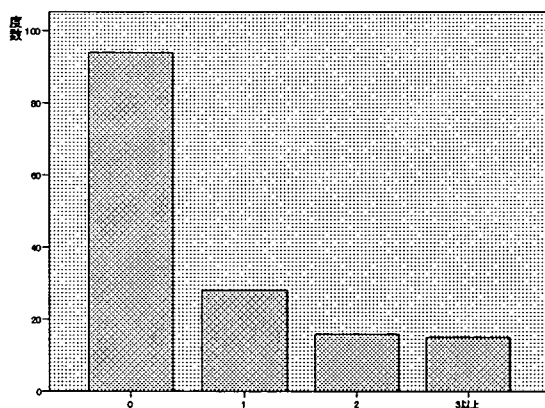
回答のあった施設で、常勤ソーシャルワーカー数の平均は 2.6 人(最小値 0 人、最大値 16 人)であった。「2 人」26.3%の施設が最も多かった。「0 人」の施設は 14.4%であった。



32.昨年度(平成18年4月～平成19年3月)、退職した医師、看護師(准看護師を含む)、介護職・看護助手の数は、それぞれ何人ですか。

i 退職医師数

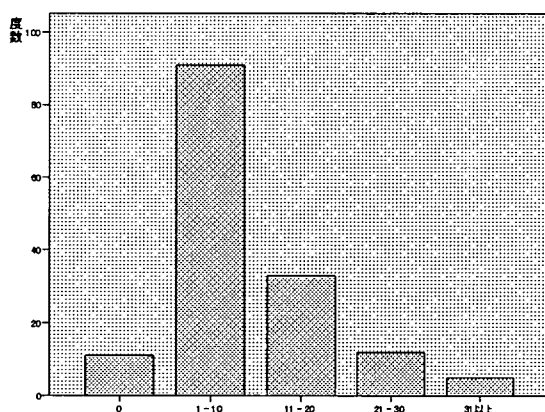
回答のあった施設で、退職した医師数の平均値は0.8人(最小値0人、最大値8人)であった。「0人」56.3%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	94	56.3	61.4	61.4
1	28	16.8	18.3	79.7
2	16	9.6	10.5	90.2
3以上	15	9.0	9.8	100.0
合計	153	91.6	100.0	
欠損値	14	8.4		
合計	167	100.0		

ii 退職看護師数

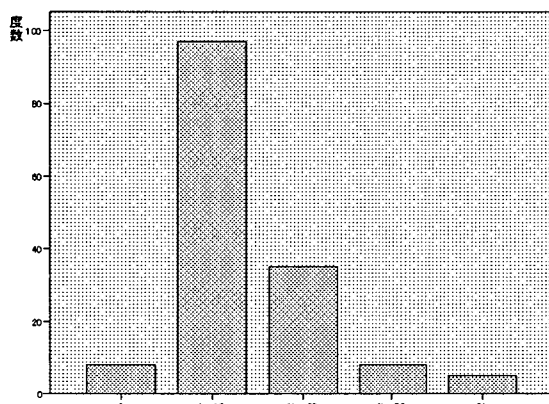
回答のあった施設で、退職した看護師数の平均値は9.6人(最小値0人、最大値60人)であった。「1-10人」54.5%の施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	11	6.6	7.2	7.2
1-10	91	54.5	59.9	67.1
11-20	33	19.8	21.7	88.8
21-30	12	7.2	7.9	96.7
31以上	5	3.0	3.3	100.0
合計	152	91.0	100.0	
欠損値	15	9.0		
合計	167	100.0		

iii 介護師・看護助手退職者数

回答のあった施設で、退職した介護職・看護助手数の平均値は9.4人(最小値0人、最大値55人)であった。「1-10人」58.1%の施設が最も多かった。

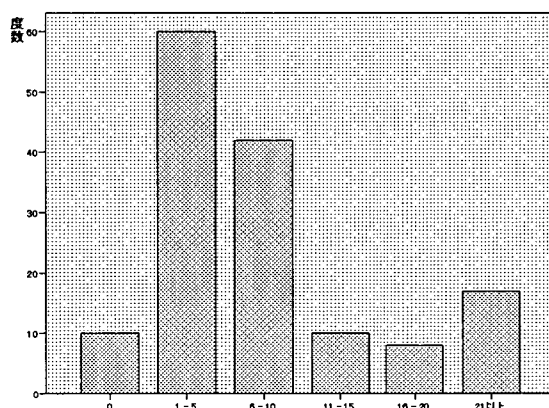


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	8	4.8	5.2	5.2
1-10	97	58.1	63.4	68.6
11-20	35	21.0	22.9	91.5
21-30	8	4.8	5.2	96.7
31以上	5	3.0	3.3	100.0
合計	153	91.6	100.0	
欠損値	14	8.4		
合計	167	100.0		

31.昨年度(平成18年4月～平成19年3月)、職員(医師・看護師・その他スタッフ)が参加した学会、研究会、研修会のうち、旅費や参加費を施設で補助したものは何回ありましたか。ない場合は、0とご記入ください。

i 医師が参加した学会

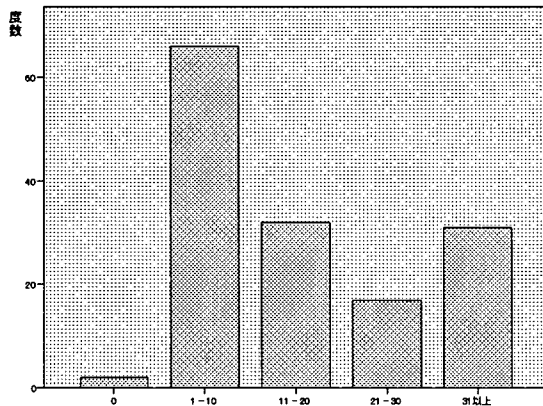
医師が参加した学会は、平均10.8回(最小値0回、最大値147回)であった。「1-5回」35.9%と答えた施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	10	6.0	6.8	6.8
1-5	60	35.9	40.8	47.6
6-10	42	25.1	28.6	76.2
11-15	10	6.0	6.8	83.0
16-20	8	4.8	5.4	88.4
21以上	17	10.2	11.6	100.0
合計	147	88.0	100.0	
欠損値	20	12.0		
合計	167	100.0		

ii 看護師が参加した学会

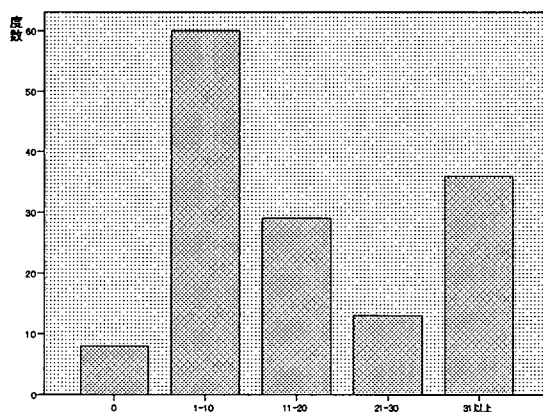
看護師が参加した学会は、平均21.9回(最小値0回、最大値298回)であった。「1-10回」39.5%と答えた施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	2	1.2	1.4	1.4
1-10	66	39.5	44.6	45.9
11-20	32	19.2	21.6	67.6
21-30	17	10.2	11.5	79.1
31以上	31	18.6	20.9	100.0
合計	148	88.6	100.0	
欠損値	19	11.4		
合計	167	100.0		

iii その他のスタッフが参加した学会

医師、看護師以外のスタッフが参加した学会は、平均28.5回(最小値0回、最大値370回)であった。「1-10回」35.9%と答えた施設が最も多かった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0	8	4.8	5.5	5.5
1-10	60	35.9	41.1	46.6
11-20	29	17.4	19.9	66.4
21-30	13	7.8	8.9	75.3
31人以上	36	21.6	24.7	100.0
合計	146	87.4	100.0	
欠損値	21	12.6		
合計	167	100.0		

2-1-2. 施設長への調査結果(分散分析、およびクロス集計)

次に、一元配置分散分析、およびクロス集計(χ 二乗検定)を用いて更なる検討をするために次のような手続きを行った。施設長になってからの年数については、その分布から5年以下、6-10年、11年以上の3群に区分した変数「施設長歴3R」を計算した。施設の立地については、「その他」の内容を加味して「住宅散在地域」とそれ以外(人口密度からいうとすべて「住宅密集地域」ととらえられる)に区分した「施設立地2R」を計算した。総合的機能評価の実施状況については、後期高齢者医療制度を含め、この重要性をかんがみ、「行っている」とそれ以外の2群に区分した変数「機能評価2R」を計算した。在院日数については、その分布から179日まで、180-365日、365日以上の3群に区分した変数「在院日数3R」を計算した。総病床数については、医療保険療養病床数と介護保険療養病床数を合わせたものとし、その分布から99床以下、100-199床、200床以上の3群に区分した変数「総病床数3R」を計算した。医療保険療養病床数を総病床数で割った比率(%)の分布から、39%まで、40-99%、100%の3群に区分した変数「医療病床比3R」を計算した。

学習、研究、連携活動の指標として、「地域交流」「実習生受け入れ」「ボランティア受け入れ」「研修担当者」「研究助成申請」「部門横断的委員会」「地域連携室」「地域連携担当者」の8項目については「あり」の出現数を、「院内研究・研修年間回数」については10回以上、「職員一人当たり年間学会参加補助回数」については0.5回以上の出現数をすべて加算した変数「学習・連携指標」を計算した。

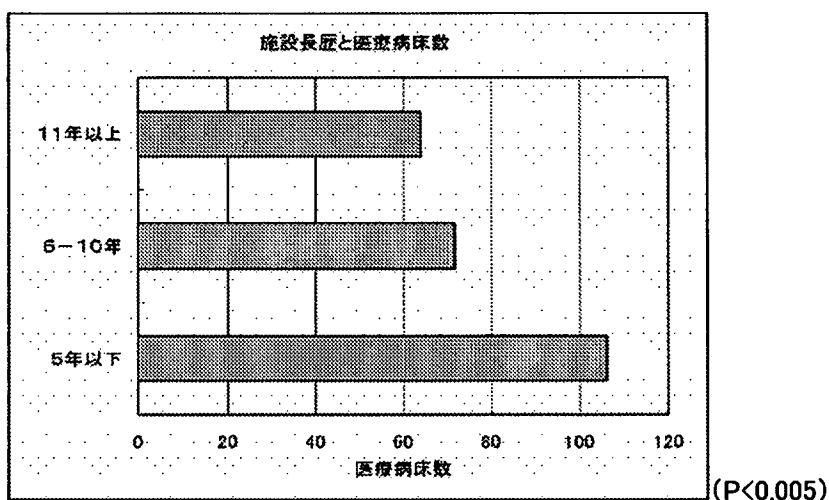
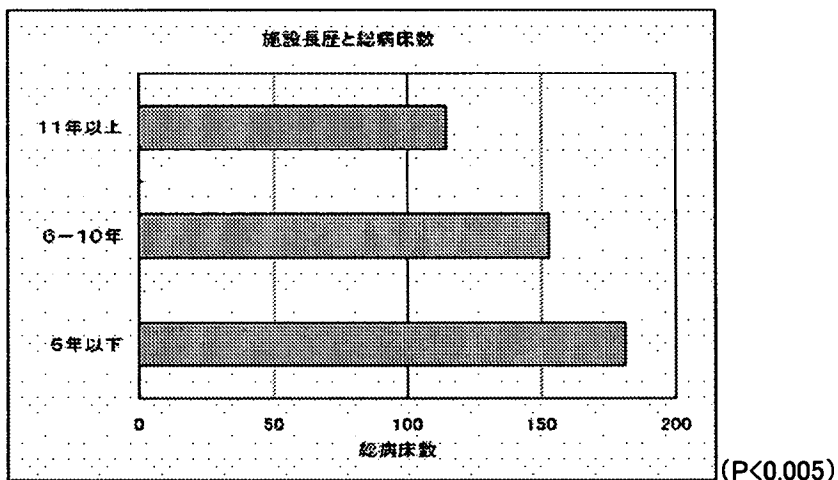
退院数、常勤職員数、退職職員数については、すべて総病床数で除して「総退院率」「死亡退院率」「自宅退院率」など、「常勤医師率」など、「退職医師率」などを計算した。

続いて、先に求めた「施設長歴3R」、「施設立地2R」、「機能評価2R」、「在院日数3R」、「総病床数3R」、「医療病床比3R」の6変数と、作成した変数を含むさまざまな変数との一元配置分散分析、およびクロス集計(χ 二乗検定)を行った。以下では、それらの結果の中から、主なものについて示す。

1. 施設長歴との関連について

施設長歴の短い施設長は総病床数、医療保険療養病床数の多い施設の施設長になっていることが示された。

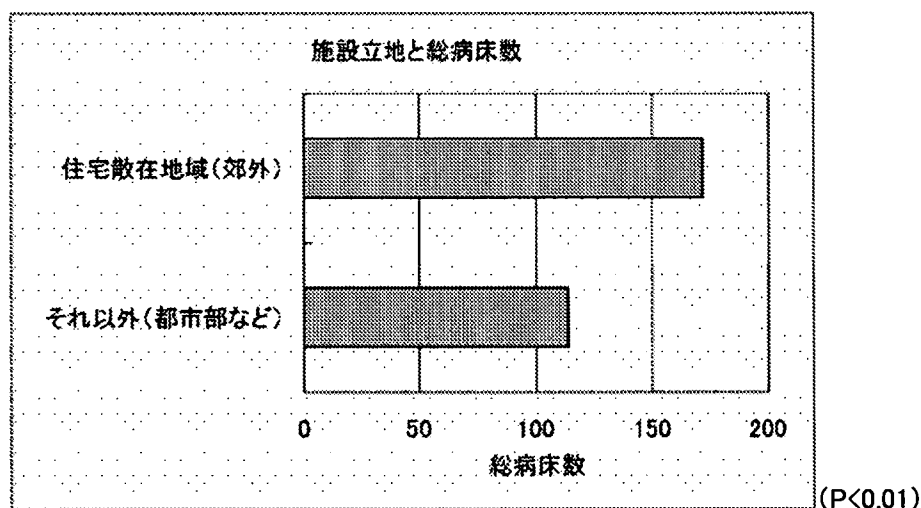
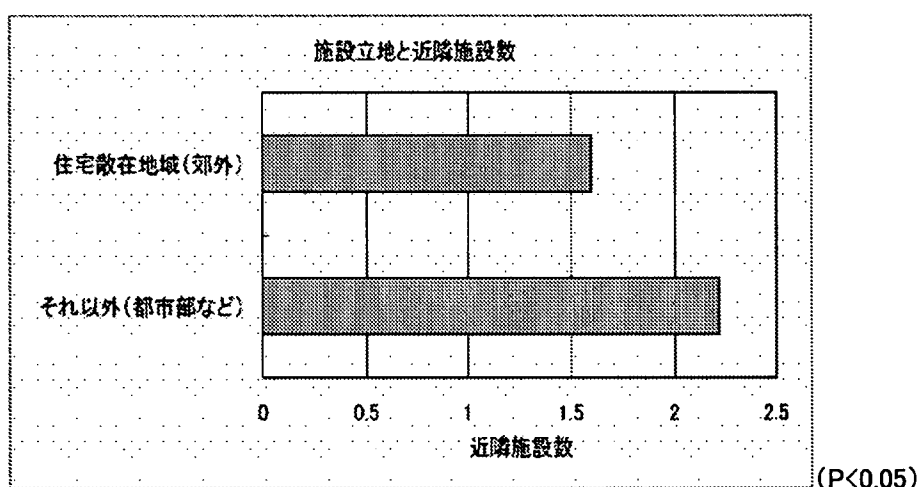
施設長歴の分類と、「学習・連携指標」得点、「自宅退院率」などさまざまな退院率、「常勤医師率」など常勤職員率、「退職医師率」など退職職員率とは関連がなかった。また、自身の「年齢」、「性」、「療養病床再編についての考え」、「後期医療制度についての考え」、「施設運営で重視している内容」、「医師の採用に当たって優先している内容」、「認知症高齢者対応病棟設置の有無」、「総合的機能評価の実施状況」とも関連はみられなかった。

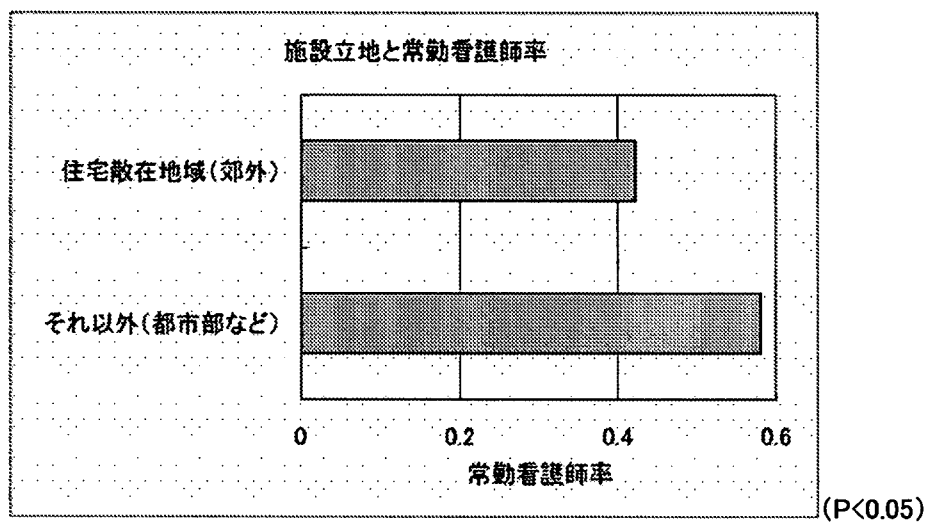
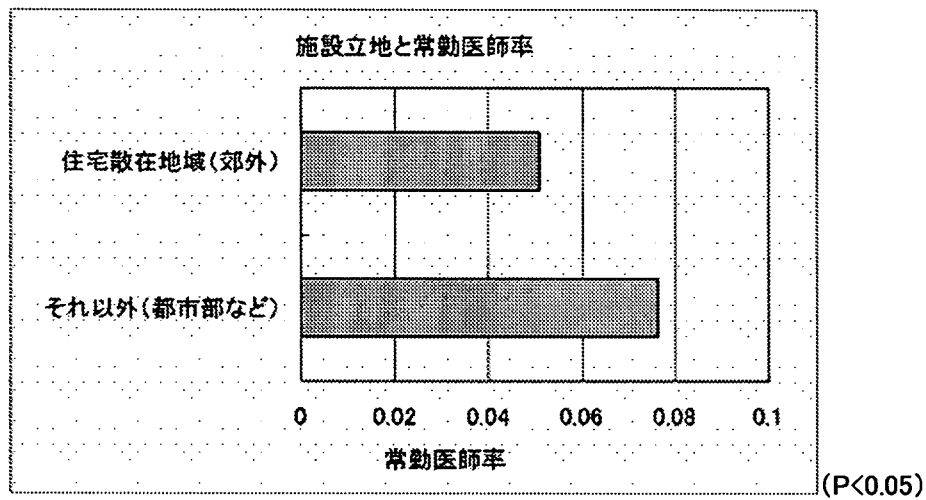


2. 施設立地との関連について

住宅散在地域に立地した施設では、近隣の施設数が少なく、総病床数が多く、常勤医師率、常勤看護師率が低いことが示された。また、住宅散在地域に立地した施設では、女性の施設長が少なく、施設運営で「在宅復帰を進める」ことを重視している割合が低く、認知症高齢者対応病棟を設置している割合が高かった。

立地条件分類と、「学習・連携指標」得点、「自宅退院率」などさまざまな退院率、「退職医師率」など退職職員率とは関連がなかった。また、自身の「年齢」、「療養病床再編についての考え」、「後期医療制度についての考え」、「医師の採用に当たって優先している内容」、「総合的機能評価の実施状況」とも関連はみられなかった。





施設立地と性別

施設立地	性別	性		合計
		男性	女性	
施設立地 それ以外(都市部など)	度数	66	7	73
	%	90.4	9.6	100
住宅散在地域(郊外)	度数	92	2	94
	%	97.9	2.1	100
合計	度数	158	9	167
	%	94.6	5.4	100

(P<0.05)